

新国立劇場 2016/2017 シーズン演劇公演

[JAPAN MEETS…—現代劇の系譜をひもとく—]XI

君が人生の時

作◎ウィリアム・サローヤン

翻訳◎浦辺千鶴

演出◎宮田慶子

2017年6月13日(火)～7月2日(日)

新国立劇場 中劇場

20世紀前半、不穏な時代に謳い上げる人間賛歌 アメリカ演劇珠玉の名作を宮田慶子が新訳で紡ぐ

日本の近代演劇に大きな影響を与えた海外作品を新たな翻訳でお贈りする「JAPAN MEETS…—現代劇の系譜をひもとく—」シリーズ。その第11弾として、1939年ニューヨークにて初演され、ニューヨーク劇評家賞とピュリッツァー賞を受賞(本人は辞退)した、ウィリアム・サローヤンの『君が人生の時』を取り上げます。

舞台は戦争の影が忍び寄る時代、サンフランシスコの場末の酒場。懸命に生活を送り、逆境の中でも誠実であろうとする慎ましき人々の健気な姿が、奥底に人間存在への絶対的な信頼感と優しい眼差しを持って描かれます。

演出には宮田慶子演劇芸術監督、翻訳は『星ノ数ホド』の翻訳で、小田島雄志・翻訳戯曲賞を受賞した浦辺千鶴を迎えます。出演には坂本昌行、野々すみ花、丸山智己、橋本淳、木場勝己ら魅力的な布陣が揃い、戦前の名作を丁寧に紡ぎ出します。ご期待ください。

【3月19日(日)チケット前売り開始 ☎ 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999】

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ

◎新国立劇場 制作部演劇 広報担当 藤沢 花

TEL: 03-5352-5738 / FAX: 03-5352-5709

◎新国立劇場 制作部演劇 制作担当 三崎 力

 **新国立劇場**
NEW NATIONAL THEATRE TOKYO
<http://www.nntt.jac.go.jp>

◎あらすじ

舞台はサンフランシスコの波止場の外れにある、安っぽいショーを見せるニックが経営する場末の酒場。そこには様々な事情を抱えた客がやって来ては去っていく。ピアノの名手、ダンサー、港湾労働者、哲学者、警察官、娼婦……。誰もがそれぞれの想いを抱えながら酒を飲み、本音をポツリと語り、時の流れに身を委ねる。

若く美しい放浪者のジョーは、いつからかこの店にやって来て毎日朝から晩までシャンパンを飲んで過ごす不思議な男だった。この店で出会いジョーの弟分となったトムは、客の一人、自称女優の魅惑的な女性キティに恋しているが思いを打ち明けられずにいた。

◎翻訳 浦辺千鶴からのメッセージ

多くのサローヤン作品と同様、この作品でも市井の人々のささやかな暮らしが描かれている。彼が目を向けるのはドラマチックな人生や出来事ではなく、どこにでもいる平凡な人々だ。登場人物たちはサンフランシスコの安酒場に集い、みんな自分の人生を真正面から生きようとしている。時には愚直にすら思えるほど、自分の中にある美しいもの、善きものに従い生きようとする人々に、サローヤンは温かい視線を投げかける。

本作が発表されたのは、アメリカの社会に戦争の気配が濃厚になってきた1939年であり、魂の善良さとは相容れない「戦争」を前に書いたこの作品には、迫り来る権力や力に立ち向かい、自らの魂の信念に沿って美しく人生を生きようとする人々の姿が描かれている。

私自身、人の中にある「善きもの」を信じたくて、演劇の世界に身を置いているところがある。そんな私にとってこの『君が人生の時』は、大いに勇気づけてくれるものであり、今の時代にこの作品に関わらせていただける意義をとっても強く感じている。

◎演出 宮田慶子からのメッセージ

サローヤンの『君が人生の時』を初めて読んだのは、20代後半だったと思う。正直に白状すると、そのときは「何も理解できなかった」というのが事実だ。無理も無い。この戯曲は、人生の機微も陰影もわからない若造なんかには、とても理解できない「ホン」なのだ。

以来、折りにふれ、ときどきページを開きながら、歳を重ねるうちに、だんだんと「気になるホン」になっていった。そしてついに「やりたいホン」になり、そして、自分で手がける幸運な機会に巡り会えた。身の引締まる想いだ。

1930年代の大不況から、次第に第2次世界大戦への重苦しい気配が色濃くなる中、アメリカ演劇界を席卷していた社会劇や政治思想の強い作品に背を向けるように、1939年にサローヤンの『君が人生の時』は生み出された。（ちなみに、ソートン・ワイルダールの『わが町』は前年の1938年の発表である。）

主人公ジョーを巡る、行き交い出入りする人々とのさりげないドラマが積み重なりながら、「時」に包まれた世界が組み上がる。人間をいとおしみ、生きる喜びをつむぐことによって、不幸な時代への警鐘を鳴らす作者の想いは、知性と誇りを切実に求めている。

音楽やダンスも絡みながら、世界の縮図のような「美しい」時間が作れたら・・・と思う。

◎プロフィール

作◎ ウィリアム・サローヤン (William SAROYAN)

1908年、カリフォルニア州フレズノに生まれる。両親はアルメニアからの移民。幼くして父親を亡くし、新聞配達などをして一家の家計を支えた。その後作家を志し、34年、「ストーリー」誌に掲載された短篇小説『空中ぶらんこに乗った大胆な若者』で脚光を浴びる。『我が名はアラム』(1940)、『人間喜劇』(1943)、『ママ・アイラブユー』(1956)などの小説は日本でも評価が高い。劇作家としても、ピューリッツァー賞に選ばれた39年の『君が人生の時』を皮切りに作品多数。アルメニア系という自身のルーツや、少年時代の貧しい暮らしを下敷きに、厳しくとも希望のある人生模様を温かく描いた。81年、生まれ故郷のフレズノにて死去。

翻訳◎ 浦辺千鶴 (うらべ・ちづる)



上智短期大学英語学科、東京女子大学文理学部英米文学科卒業。小田島恒志、山内あゆ子両氏に師事。これまでに東急文化村、パソナ、新国立劇場などからの依頼で多くの作品の下訳を手掛けている。2009年、新国立劇場『シュート・ザ・クロウ』(小田島恒志氏との共訳)で本格的に翻訳家としてデビュー後、新国立劇場において、14年『星ノ数ホド』、15年『パッション』を翻訳。

『星ノ数ホド』、俳優座劇場『月の獣』の翻訳に対し、第8回小田島雄志・翻訳戯曲賞を受賞。

演出◎ 宮田慶子 (みやた・けいこ)



1980年、劇団青年座(文芸部)に入団。83年青年座スタジオ公演『ひといきといき』の作・演出でデビュー。翻訳劇、近代古典、ストレートプレイ、ミュージカル、商業演劇、小劇場と多方面にわたる作品を手がける一方、演劇教育や日本各地での演劇振興・交流に積極的に取り組んでいる。公益社団法人日本劇団協議会常務理事、日本演出者協会副理事長。主な受賞歴に、94年第29回紀伊国屋演劇賞個人賞(青年座『MOTHER』)、97年第5回読売演劇大賞優秀演出家賞(青年座『フコヒコ』)、98年芸術選奨文部大臣新人賞(新国立劇場『ディア・ライアー』)、2001年第43回毎日芸術賞千田是也賞、第9回読売演劇大賞最優秀演出家賞(青年座『赤シャツ』『悔しい女』、松竹『サラ』)など。上記以外の主な演出作品に、青年座『ブンナよ、木からおりてこい』『妻と社長と丸ちゃん』『をんな善哉』、松竹『愛は謎の変奏曲』『恋の三重奏』『ガブリエル・シャネル』、ホリプロ『ノイズズオフ』『エレファントマン』『ペテン師と詐欺師』、パルコ『ふたたびの恋』『LOVE30』など。新国立劇場では上記『ディア・ライアー』のほか、『かくて新年は』『美女で野獣』『屋上庭園』を演出。芸術監督就任後は2010/2011シーズン『ヘッダ・ガーブレ』『わが町』『おどくみ』、2011/2012 シーズン『朱雀家の滅亡』『負傷者16人— SIXTEEN WOUNDED—』、2012/2013 シーズン『るつぼ』『長い墓標の列』『つく、きえる』、2013/2014 シーズン『ピグマリオン』『永遠の一瞬— Time Stands Still—』、2014/2015 シーズン『三文オペラ』『海の夫人』。2015/2016シーズン『パッション』『月・こうこう、風・そうそう』、2016/2017シーズン『君が人生の時』。また、オペラ部門では『沈黙』(12・15年)を演出。16年4月より新国立劇場演劇研修所所長。

ジョー ◇ 坂本昌行(さかもと・まさゆき)

1995年V6のメンバーとしてCDデビュー。これまでにテレビ、ラジオ、舞台、コンサートと幅広く活動。CX『ノンストップ』では毎週金曜の「One Dish」コーナーに出演。

最近の主な舞台に『TWENTIETH TRIANGLE TOUR 戸惑いの惑星』『MURDER for Two』『ON THE TOWN』『フランケンシュタイン』『シルバースプーンに映る月』『MY ONE AND ONLY』『ZORRO THE MUSICAL』『Pal Joey』『アリバイのない天使』『ALL SHOCK UP』『THE BOY FROM OZ』『NO MAN'S LAND(ノー・マンズ・ランド)』などがある。2017年、第24回読売演劇大賞優秀男優賞受賞。V6としてニューシングル『Can't Get Enough/ハナヒラケ』が3月15日発売。

キティ ◇ 野々すみ花(のの・すみか)

宝塚歌劇団宙組トップ娘役を務め、2012年に退団。

その後は舞台、テレビを中心に活動。最近の主な舞台に『ラブ・レターズ』『ライムライト』『シェルブールの雨傘』『愛の唄を歌おう』『プルーフ/証明』『祈りと怪物～ウィルヴィルの三姉妹(蜷川幸雄ヴァージョン)』などがある。他にはテレビ『重版出来!』『吉原裏同心』『あさが来た』など。

ニック ◇ 丸山智己(まるやま・ともみ)

これまで、映画、舞台、テレビと幅広く活動。

最近の主な舞台に『ジュリアス・シーザー』『祈りと怪物～ウィルヴィルの三姉妹(KERAヴァージョン)』『PRESS～プレス～』『シンベリン』『血の婚礼』『血は立ったまま眠っている』『開放弦』などがある。他には映画『サクラダリセット』『ミュージアム』『アンフェア the end』『るろうに剣心 京都大火編/伝説の最期編』『黒執事』『SP 野望篇』、テレビ『嫌われる勇気』『石川五右衛門』『HOPE～期待ゼロの新入社員～』『世界一難しい恋』など。

トム ◇ 橋本 淳(はしもと・あつし)

2004年にドラマ『WATERBOYS2』でデビュー後、ドラマ・舞台にと幅広く活躍している。これまでの主な出演作はドラマ『連続テレビ小説 ちりとてちん』『大河ドラマ 軍師官兵衛』『グーグーだって猫である2』『NHKプレミアムドラマ PTAグランパ!』など。NHK FMシアター『春までの旅』にて主演を務め、舞台は『キネマと恋人』『クレシダ』『魔術』『書く女』『ペール・ギュント』『城山羊の会 トロワグロ』『HISTORY BOYS』など。新国立劇場では『わが町』『温室』『ピグマリオン』『海の夫人』『月・こうこう、風・そうそう』に出演。

キット・カーソン ◇ 木場勝己(きば・かつみ)

舞台を中心に活動を続け、読売演劇大賞最優秀男優賞、紀伊國屋演劇賞個人賞など受賞多数。最近の主な舞台に『ザ・空気』『鱈々』『テレーズとローラン』『きらめく星座』『海辺のカフカ』『ヘンリー四世』などがある。他には映画『駆込み女と駆出し男』『家族はつらいよ』、テレビ『天皇の料理番』『水族館ガール』など。

新国立劇場では『やけたトタン屋根の上の猫』『夢の泪』『夢の裂け目』『ヘンリー六世』『異人の唄』『氷屋来る』『ガラスの動物園』『マクベス』など出演。

◎マンスリー・プロジェクトについて

一人でも多くの方に気軽に劇場に足を運んでもらいたいと、“開かれた劇場”を目指す芸術監督の宮田慶子。その一環として、演劇講座あり、リーディングあり、トークショーありの、多彩な無料プログラムを用意し、その月々に関連した演劇公演に多角的にアプローチしています。

募集期間内に、新国立劇場ウェブサイト所定のフォーマットでのお申し込みが必要です。詳しくは、新国立劇場マンスリー・プロジェクトのウェブサイト (<http://www.nntt.jac.go.jp/play/monthly/>)か、情報センター(03-5351-3011(代))でご確認ください。

トークセッション「かさなる視点—日本戯曲の力—」

出 演: 谷 賢一、上村聡史、小川絵梨子、宮田慶子
日 時: 2017年5月13日(土)18:00～
会 場: 新国立劇場 小劇場
募集期間: 2月9日(木)～

『白蟻の巣』『城塞』『マリアの首』の演出家たちが結集。日本戯曲の魅力や、お互いの作品、演出について、思う存分意見を交わします。視点はどこへ向かい、何を感じたのか? 宮田監督を交えてシリーズを振り返ります。

リーディング公演 ウィリアム・サローヤン作品より

演 出: 宮田慶子
日 時: 2017年6月23日(金)18:30、25日(日)17:00
会 場: 新国立劇場 中劇場
募集期間: 未定

演劇公演『君が人生の時』にあわせて、ウィリアム・サローヤン作品の中から名作をリーディングにて上演いたします。

演劇講座「ジョン・オズボーンの魅力」

講 師: 谷岡健彦(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授)
日 時: 2017年7月15日(土)18:00
会 場: 新国立劇場 小劇場
募集期間: 4月6日(木)～

ジョン・オズボーンの『怒りをこめてふり返れ』が、戦後の英国演劇を刷新したとよく言われますが、その新しさは今の観客には見えにくくなっています。本講座では、当時の演劇状況にふれつつ作品の魅力をお伝えします。

◎公演概要

【タイトル】 君が人生の時

【スタッフ】 作 ウィリアム・サローヤン
 翻訳 浦辺千鶴
 演出 宮田慶子
 美術 伊藤雅子
 照明 沢田祐二
 音楽 かみむら周平
 音響 上田好生
 衣裳 半田悦子
 ヘアメイク 川端富生
 演出助手 城田美樹
 舞台監督 福本伸生
 芸術監督 宮田慶子
 主催 新国立劇場

【キャスト】

坂本昌行 野々すみ花
 丸山智己 橋本 淳 下総源太郎 沢田冬樹 中山祐一郎 石橋徹郎 枝元 萌
 瀬戸さおり 渋谷はるか RON×II かみむら周平 林田航平 野坂 弘 二木咲子
 永澤 洋 寺内淳志 坂川慶成 永田 涼 澤山華凜 三浦涼音
 一柳みる 篠塚 勝 原 金太郎 木場勝己

【会場】 新国立劇場 中劇場 (京王新線 新宿駅より1駅、「初台駅」中央口直結)

【公演日程】 2017年6月13日(火)～7月2日(日)

2017年 6～7月	13 火	14 水	15 木	16 金	17 土	18 日	19 月	20 火	21 水	22 木	23 金	24 土	25 日	26 月	27 火	28 水	29 木	30 金	7/1 土	2 日
12:30				★	●	●					●	●	●					●	●	●
13:00		●	休演					●	休演	貸切					●	●	休演			
18:00					●							●							●	
18:30	●	●						●	●					●		●				

★＝終演後、シアタートークあり

【前売開始】 2017年3月19日(日)10:00～

【料金】 S席8,640円 A席6,480円 B席3,240円 Z席1,620円* (税込)

【チケット申し込み・お問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nnt/>

【その他チケット取り扱い】

チケットぴあ、イープラス、ローソンチケット ほか

* **Z席1,620円** 公演当日10時よりボックスオフィス窓口で販売。1人1枚。電話予約不可。* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約不可。* 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生以下20%)など各種の割引サービスをご用意しています。